

事業性評価融資について

—経営ビジョンシート作成の手引き—

農業の成長産業化のためには、次代を担う競争力ある担い手の確保・育成が不可欠であり、そのためには、個々の農業者の経営能力や将来性を見極めて、その成長発展に必要な取組を資金面から強力に支援することが必要です。

そこで、日本政策金融公庫農林水産事業では、農業を営んでいる皆さまの事業性に重点を置いた新たな融資スキーム（**事業性評価融資**）を構築し、新たな事業分野への進出や規模拡大など経営展開の節目となる取組を資金面で支援いたします。

□ 「事業性評価」って何ですか？

金融機関が現時点での財務データや保証・担保にとらわれず、企業訪問や経営相談等を通じて情報を収集し、事業の内容や成長可能性などを適切に評価することです。～「円滑な資金供給の促進に向けて」（平成27年7月金融庁）より～

なお、事業性の評価は、通常の審査に加えて実施するもので、事業性の評価結果のみで、融資の可否を判断するものではありません。

□ 事業性評価融資を受けるためにはどうすればよいですか？

事業性を評価させていただくため、資金の借り入れのご相談時に、経営理念、経営の強み・弱み、目指す経営の姿及び経営戦略を記入した「経営ビジョンシート」を提出していただく必要があります。

また、公庫が行った事業性の評価結果をもとに、経営課題に対する解決策の検討や今後の経営戦略、具体的な行動計画等を「経営発展プラン」にまとめていただきます（手続きは最終面をご覧ください）。

◇資金ごとに対象者・用途などの要件がございます。詳細は最寄りの公庫支店（農林水産事業）までお問い合わせください。

〇経営ビジョンシートの記入のポイント

《経営ビジョンシート作成の目的》

自らの経営でどのような「強み」を持っているのか、または「弱み」（課題）は何か、まずは自己の経営を“知る”ことが必要です。そして認識した自らの経営を踏まえ、将来ビジョンを設定し、そのビジョン実現するための具体的な経営戦略・事業計画を作成することが経営ビジョンシート作成の目的です。

I 経営理念・経営の「強み」・「弱み」の記入ポイント

様式 1

事例 1 (稲作：規模拡大)

記入日：平成27年8月10日

株式会社 日本政策金融公庫（農林水産事業） 御中

住
名称
代 表

経営ビジョンシート

事業性評価融資を希望しますので、本ビジョンシートを提出させていただきます。

現時点で、明文化した経営理念を定めていない場合は、経営において大切にしている考え方などを記入する。
創業の経緯や企業名（屋号）などの由来などから導き出すことも一つの方法。

1 経営理念【モットー】

【事業経営を行っていく中で何を達成したいのか、また、経営において大切にしている考えや何がについて記入】

- ・ 農業を「生命創造産業」ととらえ、消費者に主食である安全・安心なお米を供給する責任を果たす。
- ・ また、多面的機能を有す農地を守るとともに、地域雇用の創出、地域経済の発展に貢献する。

2 経営の強み・弱み

【強み】：自らの経営の「売り」となる要因や、自らの経営だから出来ることを記入】

【弱み】：自らの経営の成功（成長）を阻害する要因や、同業他社と比較して劣っている事柄を記入】

項目	強み	弱み
経営規模		
生産	立地	・ 農地が分散している
	生産量（単収）	
	品質	・ 1年単収平均97% (地域平均70%)
	その他	
仕入	・ 協力農家と資材の共同購入によるコスト削減	
加工	・ 6次化法の総合化計画認定	
設備（機械・建物）		・ 米買い取り時の資金繰り ・ 少ない自己資本（債務超過） ・ 既存乾燥調製施設の老朽化
人材労務	・ 法人設立後（8年目）離職者なし	

「強み」には、自分の生産した農産物や加工品などが顧客に「なぜ選ばれているのか」という観点で記入。
また、他者とはどのような違いがあるか、自らの経営にしかできないことは何かという点を掘り下げて検討する。

「弱み」は、ただ抽出するだけでなく、克服できる課題（弱み）か、困難な課題かを検証して記入する。
また、自己の成功を阻害する要因や他社に劣っている事柄は何かという点を掘り下げて検討する。

□ 実際の手続きはどうすればよいのですか？

① ご相談

- ・ ご相談時に既存資料（農業経営改善計画、決算書等）を持参してください。また、経営ビジョンシートの作成について、打合せを行います。

② 経営ビジョンシートの作成

- ・ 自己の経営を改めて振り返り、強みと弱みを把握したうえで、経営ビジョンシートを作成してください。

③ 経営ビジョンシートの提出

- ・ 提出時に面談を行い、経営ビジョンシートの内容について、説明していただきます。

④ 事業性の評価

- ・ 経営ビジョンシート等をもとに、本店（営業推進部）で事業性の評価を行います。
- ・ なお、通常の審査も並行して実施します。

⑤ 結果のフィードバック

- ・ 事業性の評価結果を「事業性評価書」に取りまとめ、フィードバックします。

⑥ 経営発展プランの作成

- ・ 事業性評価書を踏まえ、今後の経営戦略と戦略実施上の課題、具体的な行動計画を公庫と一緒に検討し「経営発展プラン」に取りまとめます。

⑦ 借入申込書の提出

- ・ 作成した「経営発展プラン」は、借入申込書と一緒に提出します。

⑧ 融資決定・契約の締結

- ・ 融資決定、金銭消費貸借契約を締結します。
- 注：『事業性評価融資』は通常の審査に加えて実施するもので、経営発展プランと通常の融資審査の結果を踏まえて、融資の可否を判断いたします。

□ 経営理念って必要ですか？

経営理念とは、自らの経営が存在する意義や使命を現したもので、どのような経営姿勢を貫くかという基本的なスタンスであり、価値判断の基準となるべきものです。

価値判断の基準がないと、判断に迷いが生じた際に、何も決めることができなくなります。今後の経営戦略の定める際にも経営理念に立ち返って検討することが重要です。

経営が成長・発展するためには、経営の目的そのものである経営理念と、将来の明確なビジョンが必要不可欠になります。現時点で、明文化した経営理念を定めていない場合は、経営において大切にしている考え方などからこの機会に経営理念（モットー）を考えてみてください。